

管 理

混播牧草の栽培はこのように！！

諏 訪 一 男

農家経営の安定についてはあらゆる手段を講じていますが、そのうち最も重要な1つとして、生産費の低減があげられます。自給飼料増産も、その一環として極めて必要に迫られています。この自給飼料のうち、牧草は家畜の飼料として適しており、また収量が多いうえに労力もあまりかからぬということが認められるようになって、牧草の栽培は県下各地で行なわれ、作付面積の伸びもいちじるしいものがあります。

特に国の助成による草地改良事業が盛んに行なわれ、なお一層の拍車がかけてられています。

牧草の選択

牧草の栽培において、先ず第一に牧草の種類はどんなものを選ぶかであります。牧草には品種が何十種類にもおよんでいます。これらには土地条件、気候条件、あるいは生存年限の長短など、それぞれ特性があり、その選択は非常に困難ではありますが、これらの中の収量の多い良質なもので、しかも本県に適したものといえばイネ科ではイタリアンライグラス、オーチャードグラス、トールオートグラスなど、マメ科ではラジノクローバー、レッドクローバー、ルーサンなどがあります。もっとも条件の悪いところにはさらにイネ科ではペレニアルライグラス、ケンタッキー31 フェスクなど。マメ科ではバズ・フット・トリフォイル、ホワイド・グローバー、サブ・クローバー、スウィートクローバー等が良いでしょう。

混播した方が有利

また牧草は、1種類だけよりも2種類以上数種類を混播した方が、①収量も多く ②栄養分の均衡 ③あるいは合理的な土壌養分の利用と肥料の節約 ④また乾草が作りにくいマメ科牧草も、イネ科牧草の混じっていることによって乾草作りが容易となる

などすぐれた点があります。これは牧草の特性を利用して、利用目的に従って5～6種による栽培をすることが望まれます。

施肥灌水は十分に

牧草の種類が決まると次はまき床の作り方ですが、これは畑、水田裏作または自然草地など、牧草を取り入れる場所によって、まき床の作り方は少しずつ違って来ますが、普通一般には牧草地は一度作り上げると3年も4年もの間使うこととなるので、多収穫を得るためには耕起20cmくらいにして肥料をよくまぜ、水分が保たれて根をよく発育させるようにします。

また牧草の種子は、他の作物と比較して一般に小さいので碎土、整地で十分でないとう芽のふぞろいや、折角発芽しても枯死してしまい、また覆土の厚さがまちまちになって種子と土との接触が悪く予定収量が望めないこととなりますので、出来るだけ丁寧に行なうことです。

また牧草は、土地の酸性が高い場合は生育しないものが多いので特に自然草地を改良して牧草をさいばいするものについては必ず炭カルを反当500kgくらい入れて酸度を矯正しP・H6.5くらいにすることです。次に施肥量ですが、牧草はイネ、ムギのように実取を目的としないで茎葉を青刈で利用するので、多収穫の実例は例外なく肥料が多量に用いられます。基肥の一例を申し上げますと、10アール当り窒素質肥料200kg、磷酸質肥料300kg、加里質肥料150kg程度は必要でありまして、この上に鶏糞、厩肥を用いると更に効果的です。

播種量は10アール当り約2キロ

また混播牧草の場合、イネ科とマメ科の割合が2対1になっているのが理想的ですが、ややもするとこの均衡が破れることが多いので、このようなときに

岡山畜産便り 1963.09

は磷酸質肥料を多くして窒素肥料をおさえるとイネ科が多くなって来るなど、ある程度の調節は出来るので追肥する場合は、よく草生、草種の状況を見て種子は非常に小さくて、しかも混播することが多いので種子のまきかたもまた、他の作物よりやっかいな作業であります。これがうまく行かないと発芽が悪かったり混播にむらができるので単播と同様になったりして、はじめ計画した収量があがらないことになるので注意する必要があります。

まず播種量ですが、単播の場合は、それぞれによってまっていますが混播の場合はイネ科を1から1.5 kgくらいとマメ科を0.5から1 kgくらいをまぜて10アール当り1.5 kgから2.5 kgくらいを標準にして土地条件、利用方式によって適当に増量します。そして種子は品質のよい新鮮なものを使用することです。購入後長い間環境の悪い場所に保存すると発芽率が低下し、思わぬ発芽不成績をまねくことがあります。

10 アール当り 6,000 キロの収穫

次に牧草は適期に播くことを怠ってはなりません。特に秋蒔の場合、初霜の約40日前を基準に播くことです。マメ科は殊に霜に弱いので安全に冬越が出来るように播くことです。また牧草は散播にしてみらのないように播くことです。このためには綱を引張って目標にして播くとかあるいは混播する場合は、イネ科とマメ科の種子は混ざりにくいので別々に播き、また砂、のこくず等を等量にまぜて量をふやして播きむらのないようにします。

種捲が終わったならば覆土ですが、覆土は竹箒ではなくとか大面積の場合はシバハローをかけるとかの方法でできるだけ薄くします。

次に鎮圧ですが、牧草栽培には絶対必要で小面積の場合は鍬か板を転ばして踏みつけます。大面積の場合はローラーをかけるとかして鎮圧します。これによって種子は土に密着します。多少種子が地表にあらわれていても発芽を一斉にして、発芽後は根の張りをよくします。

以上のことをよく注意し、牧草を栽培してください。牧草は、畑などでは10アールあたり6,000 kg、自然草地では4,500 kgくらいは十分望まれます。ま

たその後の刈取り、追肥などの牧野維持管理が適正に行なわれることによって漸次収量は向上して自然飼料確保に貢献することになります。

紙の好きな山羊？

私は、幼いころに山羊や羊は紙が好きだぞ、なんて誰からかおしえてもらったものである。事実、山羊は紙を食う。しかし良質の草をたくさん食べている山羊に紙をやっても見向きもしない。これで山羊や羊は紙が好物なのでなく、紙まで食うほど粗食な動物であることがわかる。

参考までに山羊や羊は蛋白質の多い、マメ科の草が好物なのである。

豚コレラ発生

9月21日、玉野市内2戸11頭、児島市内2戸11頭に豚コレラが発生し、県畜産課では両市内の豚の移動禁止措置をとるとともに殺処分をした。

これらの豚は、9月11日香川県より移入したもので、予防注射は、移出直前に実施していることから免疫性ができる以前に感染していたことも考えられる。

またこれより先同地域には、このほか福岡県から移入したのもコレラのためへい死しているため、免疫性ができる以前に病したことも考えられている。このような状況から県では特に一般養豚場に豚コレラ予防注射の励行や、豚舎内外の衛生管理によって防疫に万全を期すよう望んでいる。

近県の畜産共進会

各県とも畜産共進会が開催されているが、これから開かれる近県では、広島県が竹原市で10月9日から11日まで、和牛、乳牛、めん羊、山羊を出品。尾道市で12月4、5日の両日。肉牛、めん羊を出品。広島市では明年1月開催の予定で豚抜肉を出品する。

兵庫県では10月12日から14日まで、洲本市三熊球場で開催。和牛、乳牛、肉牛、豚を出品する。